

## 令和7年度第2回春日井市観光によるにぎわい創出推進会議議事録

1 開催日時 令和8年3月16日(月)午後1時30分～午後4時

2 開催場所 春日井市役所10階 1004・1005会議室

3 出席者

【会長】名古屋国際工科専門職大学工科学部 教授	佐藤 久美
【委員】中部圏インバウンドセールスプロジェクト 事務局長	赤崎 真紀子
春日井商工会議所 理事・事務局長	白木 芳洋
春日井市観光コンベンション協会 ゼネラルマネージャー	林越 宏治
【事務局】産業部 部長	勝 伸博
経済振興課 課長	加藤 哲也
課長補佐	柳田 一哉
主査	柴田 知宏
主事	上野 真綺

【傍聴人】 1名

4 議題

- (1) 令和7年度観光によるにぎわい創出事業補助金の実績について
- (2) 観光によるにぎわい創出基本計画に基づいた令和7年度事業の進捗状況及び令和8年度実施予定について
- (3) 観光によるにぎわい創出事業補助金の主な変更点について
- (4) 観光によるにぎわい創出基本計画の令和10年度改定に向けたスケジュールについて
- (5) 観光によるにぎわい創出事業補助金(4月～6月分)審査会について

5 会議資料

次第・委員一覧・配席図

資料1 令和7年度観光によるにぎわい創出事業補助金の実績について

資料2-1、2-2 観光によるにぎわい創出基本計画に基づいた取組状況

資料3 観光によるにぎわい創出事業補助金の主な変更点について

資料4 観光によるにぎわい創出基本計画 調査項目比較表

資料5 観光によるにぎわい創出基本計画改定に向けたスケジュール

資料6 観光によるにぎわい創出事業補助金審査について

資料7 審査表

資料8 スケジュール

## 6 議事内容

議事に先立ち、配布資料の確認等を行った。

なお、令和7年度第2回の会議において、会議の公開については基本的に公開とし、観光によるにぎわい創出事業補助金の審査のみ、非公開とすることに決定している。理由は、申請者からの提案内容を公にすることにより当該法人等の権利や競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあり、春日井市情報公開条例第7条第3号のアに該当するため。よって、議題(5)観光によるにぎわい創出事業補助金(4月～6月分)審査会については非公開とする(資料6、7についても議題(5)に関するものであるため、非公開)。

### (1) 令和7年度観光によるにぎわい創出事業補助金の実績について

【事務局上野】 資料1に基づき説明。

【赤崎委員】 けっ食べのイベントについて、遠方からの参加もあったということだが、参加者はどこから情報を入手したのか。

【事務局上野】 今回のイベントを事前にSNSで発信している参加者もいたため、SNSなどを通じて情報を入手したのではないかと推測される。

【白木委員】 全事業共通して、本補助金をきっかけに事業化を考えていると思うが、参加費をどのくらいに設定すると必要な参加者を募ることができるのか。

【事務局上野】 けっ食べのイベントを例に挙げると、今回は高校生以上男性で7,000円、女性で4,000円、小学4年生～中学生だと4,000円となっている。

【白木委員】 けっ食べについては、スタート時の混雑や街中での安全確保が懸念されていたため、苦情等があったかどうか事業者を確認すると良いと思う。

【事務局上野】 スタート時はグループごとに出発し、混雑はなかった。街中での状況は事業者を確認する。

【白木委員】 ツーリストアイチの奥之院までの道について、観光として推していくなら整備をした方が良いと考える。

【林越委員】 高蔵寺ニュータウン(以下、高蔵寺NT)を自転車の聖地として推しているが、市全域を自転車の聖地として市も推していくつもりなのか。

【事務局柳田】 自転車の聖地については、高蔵寺NTの道路が広くて安全に走れる、かつ坂があるという特性があつての取組であり、あくまで高蔵寺NTの中で行うことだと理解している。

【林越委員】 ツーリストアイチの事業について、今回の内容だとコト消費にはならないと思うが、コト消費になる内容があったなら教えてほしい。

【事務局柳田】 ツーリストアイチのコト消費については、委員指摘のとおりである。しかし、内々神社自体は非常に評判が良く、新東通信のウォーキングの際にも同行した俳句の先生から「私たちの句会をここでひらきたい」という声上がるなど、春日井の地域資源としてポテンシャルの高いものと言える。

【佐藤会長】 俳句の先生は毎回同じか。

【事務局柳田】 去年と同じ3人の先生にお願いしている。

【佐藤会長】 こういった事業が定番化していくと良い。

【赤崎委員】 けっ食べや句会のようにかなりテーマが絞られている事業でも、唯一無二の魅力があれば、SNSでの発信効果も相まって、遠くからでも参加者を集められると証明されつつあるのではないか。

【佐藤会長】 句会はリピーターが多いのか、新規の参加者が多いのか。

【事務局柳田】 俳句の先生の紹介で参加されるリピーターもいるが、毎回半数程度は各媒体から情報を得た新規の参加者である。

(2) 観光によるにぎわい創出基本計画に基づいた令和7年度事業の進捗状況及び令和8年度実施予定について

【事務局柴田】 資料2に基づき説明。

【佐藤会長】 このように一覧にすると年間を通して様々な事業が実施されており、春日井のにぎわい創出に寄与しているものと言える。

【赤崎委員】 観光によるにぎわい創出の取組を継続してきた効果が表れていると感じる。評価できる点として、行政は基本縦割りで仕事をしていることが多いが、その壁を越えて様々な部署が連携してコンテンツ作りをしているのがよく分かる。観光とは、あらゆる要素が一緒になって様々なコンテンツができていくもの。多くの自治体では観光の部署だけが観光施策の取り組みをしているが、春日井市では部署間の連携ができていたと感じた。

【佐藤会長】 各部署で事業を行ってはいるが、それがどこまで連携できているのか。

【事務局柴田】 赤崎委員の発言のとおり縦割りの壁はあるが、観光部署だけではできることが限られる。そのため、各部署が持っている地域資源を連携させ、春日井の魅力の「発掘・創出・発信」を一緒にできる部署とは積極的に事業を実施するという念頭に置きながら進めてきた。事業の継続性に関

しても、当市以外でサボテンを生産しているところはあるものの、取組を継続していくこと自体が重要であり、今後も継続して地域資源を活用しながら春日井の名を広めていきたい。

【林越委員】 施策2-1-2「YouTubeを活用した動画による情報発信」について未実施と記載があるが、春日井市観光コンベンション協会が一昨年観光PR動画を作成し、YouTubeチャンネルも流しているのので、当協会としても情報発信を行っている。

【白木委員】 書のイベントについて、鳥居松商店街も実施しているのので、記載してはどうか。

【事務局柴田】 民間や他団体が行っている事業で把握しきれていないものも多くあると思うので、情報提供いただけるとありがたい。

【佐藤会長】 フォトラリーで撮った写真の優秀者に賞や景品を与えることなどはしているのか。

【事務局柳田】 フォトラリーについては、画角などの条件を定めているので、全て同じような写真になる。ただ、ラリー中に気に入ったスポットがあれば投稿できるような仕組みになっている。

【佐藤会長】 今はデジタルを活用した観光のあり方もある。当大学の学生だと、中村公園でクイズを解くとARでキャラクターと一緒に写真が撮れるという企画を実施している。学生と連携すればそういった企画も行うことができるのではないかと。またそういったコンテストを行い、面白い提案に対して市が協力するという形式にすると若年層も参加してくれるのではないかと。

### (3) 観光によるにぎわい創出事業補助金の主な変更点について

【事務局柴田】 資料3に基づき説明。

【林越委員】 4月～6月開始事業に補助金を交付したことで、7月以降の実施事業により良い事業があった際、予算が足りなくならないための明確な審査基準等はあるのか。

【事務局柴田】 今回の審査基準については、4月～6月開始事業も7月以降実施事業も同じ基準としている。

【白木委員】 総事業費が高額になることで、補助額が5分の1だとしても上限の30万円になる可能性があることを考えると、初回の事業者と2回目以降の事

業者で区分分けをする意味がなくなるのではないかと。もし変えられるのであれば上限を変えた方が分かりやすいのではないかと。

【事務局加藤】 補助額については、それぞれ3分の2以内、5分の1以内としているので、事業内容に基づいて配分を調整すれば良いと考える。令和8年度については既に条件を提示して募集をしていることから、令和9年度以降で必要に応じて見直しを検討していく。

【佐藤会長】 仮に応募が30件あり、採択したい事業者が多くあった場合でも採択は2件のみなのか。

【事務局加藤】 採択数を増やしたい場合は補助額を下げるなど、予算の範囲内であれば調整することは可能。事業内容によって差をつけることはしていきたい。

【白木委員】 林越委員が発言したように、1回目60万円、2回目80万円の予算を分けた中で配分した方が良いのではないかと。

【事務局柳田】 確かに4月～6月開始事業分の上限を決めておかないと、7月以降実施事業分の予算が無くなってしまうので、今後検討していく。

【林越委員】 今回2件の申請があるとのことだが、採択を上限の30万円ではなく、20万ずつにすることは可能なのか。

【事務局柳田】 今回の審査では補助額の配分を検討するのではなく、採択をするかしないかを審査していただきたい。

#### (4) 観光によるにぎわい創出基本計画の令和10年度改定に向けたスケジュールについて

【事務局柴田】 資料4、5に基づき説明。

【赤崎委員】 観光施設ヒアリング調査について、15か所から10か所に絞った理由と、除外する施設を選んだ基準があれば教えてほしい。

【事務局柴田】 前回15か所の施設を調査したところ、どこも似たような回答となったことから、今回は10か所に絞った。観光のトレンドや情勢を把握した上でヒアリング施設を検討していく。

【赤崎委員】 前回の調査結果から、市民は自分たちのまちを観光のまちとして認識していないことが分かるが、5年経って市民のマインドが変わっていることを期待したい。

【佐藤会長】 インターネットアンケートについて、こういった形式で回答をしても

らう予定なのか。

【事務局柴田】 委託事業者の持っているリソースによるため、委託事業者が決まってから検討していく。

【赤崎委員】 委託業者は公募するのか。

【事務局柴田】 委託業者については、こちらで指名をした業者の中から一番費用の低い事業者を採択する。

【佐藤会長】 アンケート内容に「各観光スポットに行ったことがあるか。」という項目があると人気度もわかるのではないかと。

【事務局柳田】 アンケート内容などの調整は可能なので、そういったことも考慮しながら進めていく。

#### (5) 春日井市観光によるにぎわい創出事業補助金審査

申請者からの提案内容を公にすることにより、当該法人等の権利や競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるため、非公開。

議題終了後、各委員から本会議を通じての意見や感想をいただいた。

【佐藤会長】 観光というと、見に行ったり、お土産を買ったりすることが多いが、本来は住んでいる人が自分たちのまちの良いところを外の人に見せたいという思いから始まっている。観光部局の方も春日井市のことを思って様々な事業を展開しており、本補助金制度も含めて着実に実を結んでいるのではないかと思う。また、春日井の魅力を積極的に発信してくれているインフルエンサーも存在するため、そういった方を応援し大切にしていけるとよい。

【赤崎委員】 これまで取組を継続してきた成果が表れてきていると感じる。春日井市は「観光のまちではない」という市民のマインドが変化し、それが市外からの来訪者を迎え入れるマインドにつながっていくことで、広い意味でのしっかりとした観光への取組となり、活力あるまちづくりを進めるという好循環が生まれるのではないかと。

【白木委員】 これまで3年間本補助金制度をやってきて、どれほどの事業が継続されているかは不明だが、事業が一過性にならないように継続していただけることを期待する。

上記のとおり、令和7年度第2回春日井市観光によるにぎわい創出推進会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席委員のうち1名が署名する。

令和8年4月20日

会 長 佐藤 久美

署名人 赤崎 真紀子